

知的好奇心を喚起する指導方法について（登米市）

1 登米市の概要

- (1) 人口 86,289人（男：41,886人 女：44,403人）
- (2) 世帯数 26,384世帯
- (3) 面積 536.38km²
- (4) 予算額 394億9,500万円（平成22年度一般会計当初予算）
- (5) 議員数 30人（条例定数30人、法定上限数30人）

※数字はすべて平成22年3月31日

2 ^{キタカタ}北方小学校における教育研究目標の概要

(1) 教育研究目標設定の経緯

北方小学校は、平成17・18・19年度の3年間、文部科学省より「確かな学力育成のための実践研究事業」の指定を受けている。また、宮城県教育委員会からは文部科学省の事業推進に関わる基本方針として、「児童の学習意欲向上への取り組み」、「小・中学校連携した取り組み」、「家庭学習習慣化への取り組み」の3点が示された。

北方小学校は、この方針を受け、子どもたちの学習意欲を高めるには、教師一人ひとりの授業力向上の改善により「わかる授業の展開」が重要であると考え、平成18年度の教育研究目標に「知的好奇心を喚起する指導方法の工夫・改善」を掲げた。

(2) 教育研究目標の概要と実態

「知的好奇心を喚起する指導方法の工夫・改善」の目標達成のため、以下の3点を講じれば、児童の学ぶ意欲とスキルを高め、確かな学力を身に付けさせることができると仮説が立てられた。

- 1 教師の授業力向上のための授業改善
- 2 基礎学力向上のための日常的な取り組み
- 3 学習・生活習慣向上のための家庭との連携

このうち、授業改善の視点として、以下の4点を掲げ指導方法の工夫・改善に努めている。

1 発問・開示

授業において、質問の受け答えのしかたなど低学年のうちから身につけさせるよう指導している。具体的には、返事をして最後まででいいいな言葉で話すとか、自分の考えを述べるときには「～であるから、～と考えました」などの言い方を指導している。

2 ノート指導

まずは教師の発言に注目させ、説明が終わってからノートに記入させる授業を行っている。板書も児童にわかりやすく簡潔にまとめている。

3 話し合い指導

授業でグループ討議する時間も設け、他の意見を聞き、自分の意見も述べて、自分と他の考えの類似点や相違点を把握し、お互いを理解しあうことの必要さを指導している。

4 I T活用

大画面のテレビを使って授業に集中させ、必要に応じて児童自身がI T機器を操作し、意見発表の際などに活用している。

また、家庭との連携という点では、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活リズムをつくり、計算ドリルや本の音読などを家庭で行い、日常的に学習する環境づくりを指導している。

(3) 平成22年度学校概要

児童数と学級編成

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級	1	2	1	1	1	1	1	8
計	23	46	31	39	35	36	1	211

教職員数・・・16人

3 委員・会派の所感

- 実際に授業を拝見し、何より印象的であったのは、いずれのクラスにおいても、児童の集中力が非常に高かったことである。これは、各授業が教師対児童という講義型・暗記型で展開されるのではなく、児童自らがまず考え、主体的にそれらを述べながら問題解決へと向かう授業の在

り方に大きな要因があると考えられる。自ら考えることの楽しさ・学ぶことの充実感が、授業展開の在り方からもたらされていると感じた。

覚えることより考える過程を重視する授業は、他の児童の考えを参考に自らの考えを改めるというコミュニケーション能力の向上にも大きく資するものである。

このような授業をスムーズに展開していくには、各教員に高い能力が問われるところであり、研修体制の充実が不可欠である。児童の集中力・学習意欲を啓発することのできる高い指導力、そして、それらを生み出す一貫した教育方針の各授業・各教員への徹底化は、大いに参考となるものである。

- 北方小学校では学力向上の3本柱、「分かる授業の展開」「家庭学習の習慣化」「教員の資質向上」を挙げ、学校と保護者と地域が一体となって取り組んでいた。中でも「登米っ子学習」は習熟度別学習の推進と家庭学習の習慣化の要になっている。一人ひとりに焦点を当てた学習、徹底した家庭学習に対する取り組みに感動した。

また、デジタルテレビを使っての学習が各教室で行われており、子どもたちが学習に集中していて感心した。先生方もズームのカメラをつなぎ、パソコンを駆使し、使いこなしていて、どこを学習しているのかがよくわかり、大変興味深い授業を見させていただいた。

当区でも各学校に1台電子黒板が、また各教室にデジタルテレビが1台導入されているので、わかる授業づくりのために是非研修を充実させ、大いに活用していただきたいと思う。

また、学力向上には保護者も一緒になっての家庭学習の充実が何よりも大切である。本区においても、全区的に家庭学習の充実を進めてもらいたい。

- 「教師の授業力向上なくして、児童の学力向上なし」とは、今回の視察で報告された先生の言葉である。北方小学校では、教師の研究授業を大切にしている。①模擬授業を行う②研究授業を職員全員が行う③参観者に授業評価シートを記入してもらおう④ワークショップ型事後検討会を行うなどに取り組んでいる。また、職員全員が講師になるミニ研修会も行い、公開研究会などに参加したら、そのことをテーマに発表を行うこ

ともあるとのこと。学校全体で学び合う時間をとっているということは、あまり聞いたことがなく、とてもすてきな学校だと思った。

授業では実写投影機を活用し、大型のテレビ画面に映すことで理解力を高め、児童生徒も課題発表等で投影機を使いこなしていた。

特別学級である「なかよし学級」については、入学してくる児童にあわせ学級支援編制しており、子どもを中心に、子どものための教育をしていると感じた。

- 「考える授業」を見せてもらった。社会科の授業では、「大名行列」の画像を見せ、どのような目的で行われたのかという問いかけをしていた。

子どもたちは色々な意見を出していたが、正解を教えることよりも、自由な発想を養うことに意味があると感じた。

たとえ正解とかけはなれた意見を述べたとしても、大人が思いもつかないような自由な発想こそほめたたえる評価法があってもよいと思った。

- ※ 報告書の作成にあたっては、登米市提供の資料及び北方小学校HPを参考にしました。

今日的教育課題に対応する教育活動について（秋田市）

1 秋田市の概要

- (1) 人口 323,996人（男：152,514人 女：171,482人）
- (2) 世帯数 133,882世帯
- (3) 面積 905.67km²
- (4) 予算額 1,239億5,000万円
(平成22年度一般会計当初予算)
- (5) 議員数 42人（条例定数42人、法定上限数46人）

※数字はすべて平成22年4月1日

2 秋田市の学校教育への取り組み

(1) 市内の学校数

小学校・・・45校（生徒数＝約16,000人）

中学校・・・24校（生徒数＝約8,500人）

(2) 秋田市の現状

市内の小・中学校の全69校が、共通して以下の5つの課題に取り組んでいる。

ア 小中一貫した考えに立った教育の充実

タイプA・・・1小学校と1中学校、小規模、併設型

タイプB・・・1小学校と1中学校、小規模、近隣型

タイプC・・・1小学校と1中学校、中～大規模

タイプD・・・複数小学校と1中学校

上記4タイプに分類し、小・中学校相互交流を図っている。

具体的には、小学校に中学校教員が出向き授業を行ってきた結果、教員間で協働意識が向上したとのことである。

また、小・中学校9年間の義務教育期間を連続してとらえ、小中相互連携により、小学校から中学校へ進学する際の「中一ギャップ」軽減につなげている。

さらに、児童・生徒間でも異年齢グループでの地域活動の参加などで交流が図られ、各種活動に取り組む意欲や主体性が高まったり、交

友関係が深まったなどの成果がみられた。

イ 信頼関係を深める「人と人との絆づくり」の推進

異学年交流やP T A活動との連携や地域の方を指導者としたクラブ活動や奉仕活動により信頼関係の構築を図っている。

活動を通して、思いやりの心や協力して物事を成し遂げる大切さや楽しさを感じることができた。

ウ 普遍的である徳・知・体のバランスのとれた子どもを育てる教育活動の推進

徳・・・人間関係を基盤に豊かな人間性をはぐくむこと

知・・・確かな学力の定着を図ること

体・・・体力の向上と健康の保持増進を図ること

上記の3点のバランスのとれた子どもを育てることに重点が置かれている。

エ 今日的教育課題に対応する教育活動の推進

少子化や情報化の進展により、人間関係の希薄化が指摘される中、いじめや不登校、ネットトラブルなどの問題が生じている。これに対し、市内各校ではコーディネーター的な役割を担う教員を中心に、人間関係を築く力をはぐくむための組織的な取り組みや個々の状況に応じた支援が推進されている。

オ 郷土秋田の特色を生かした教育活動の推進

地域に受け継がれてきた文化や伝統を守り伝えていくことの大切さを体験的に理解する活動をはじめ、福祉体験やボランティア活動、身近な自然を素材とする環境学習を通して、郷土発展のために積極的にかかわろうとする意欲や態度を培う教育を推進している。

(3) 課題への対応と実績

上記の5つの課題のうち、当委員会では「今日的教育課題に対応する教育活動の推進」について秋田市の現状を伺った。

秋田市では、時代性を背景に、いじめや不登校の問題が発生してきていることに注視された。インターネットや携帯電話を介した、いわゆる「ネットいじめ問題」「ネットトラブル」についての対応の充実が必要と考えられ、市内の各小・中学校に情報モラル指導を徹底し、

いじめの未然防止対策を求めた。また教育研究所には「ネット監視員」を配置し、秋田県とも連携を図り、監視を強化した。

学校・教育委員会・県が連携して迅速な対応をした結果、指導主事が学校に出向く件数が、前年に比べ半数以下に減少した。

不登校問題に対しては、児童・生徒・家庭への対応のしかたについての研修を重ね、適切な指導を心掛けた。その結果、前年に比べ、不登校児童・生徒数は若干減少しているとのことであった。

3 ^{キョクホク}旭北小学校における教育研究目標の概要

(1) 教育研究目標設定の経緯

旭北小学校は、秋田市より、前述の「今日的教育課題に対応する教育活動の推進」に関し、平成22年度「情報モラル指導の充実」について課題推進校に指定されている。

この課題に対し、情報化社会に対応するためにICTの活用を積極的に進め、また氾濫する様々な情報から正確な情報を読み取り、トラブルを回避させる判断力も必要との観点から「情報を的確に判断し、主体的に活用する子どもの育成」を研究目標に設定した。

(2) 教育研究目標の概要と実態

旭北小学校では、社会の情報化が進展していく中で、児童が情報を主体的に活用できるようになったり、コンピュータの基本的な操作や情報モラルを身につけることが重要であると考えた。

様々な情報が氾濫する中、トラブルに巻き込まれる事案や、インターネットの掲示板や携帯電話のメールによるいじめが起こるなどの問題が全国で発生している。旭北小学校では23%の児童が携帯電話を所持していることが調査で判明し、トラブル等を回避するためにも、適正なICTの活用と情報モラルについて指導する必要があると判断した。

実際に、各授業においてICTが活用されている。デジタルカメラ、ビデオカメラやパソコンを使用して、自分の考えを説得力をもって表現できるよう指導している。今回の視察では、稲の発育状況をデジカメで撮影し、パソコンに取り込んで記録された資料を拝見した。

情報モラル指導は道徳の授業で具体的なトラブル例を取り上げ、注意を呼び掛けている。

しかし、携帯電話の所持は各家庭の考え方によるものであるため、一概に所持を禁ずることもできず、悪影響への対策指導が困難な面もあるとのことであった。

(3) 平成22年度学校概要

児童数と学級編成

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級	2	2	2	2	2	2	1	13
計	51	52	42	57	55	68	3	328

教職員数・・・19人、非常勤・嘱託職員等・・・9人

4 委員・会派の所感

- 全国学力・学習状況調査、県の学力調査の他、市独自に学力調査を行っている。いずれの学力調査も競争や比較を目的とせず、児童・生徒それぞれの学習状況の把握と指導法の見直しのために実施されている。結果の詳細な分析と考察、そして、それらを踏まえた指導改善の方策の提示と授業での実践がなされており、調査を更なる学力向上へと活かしていくことが可能となっている。

本区においても、より明確な調査目的の設定、並びに徹底した結果の活用法を一層深く検討していくことが不可欠であると感じた。

- 市内すべての小・中学校に教育委員会の指導主事、秋田大学教授、教科協力員が参観し、全体会で助言・指導を行っている。

指導主事の役割として、「先生方のやる気を起こすこと。気づいてもらい、明日からがんばってもらえるようにすること」であり、「終わった授業について細かいことを言うよりも、明日につながるような言い方」を指導されているとの話に感銘を受けた。

また、学力テストの結果について、正答率にとらわれず、理解できていないところを知り、次の授業に役立てるとの考え方にも感銘を受けた。

- 自らの考えをICTにより発信していくことは、児童の表現力の向上に資するものである。パワーポイントの活用による栽培マニュアルの作成な

どは環境学習とICT活用がうまくリンクされたものであり、注目される
ところである。

- 旭北小学校では、農作物や花の栽培の記録をパソコンで残すことにより、環境学習も取り入れながら情報学習を推進していることは興味深い取り組みであった。また、その学習を通して情報モラル教育を推進できるということがわかった。

子どもたちは、やればどんどん吸収していく。先生や保護者が置いて行かれそうに感じた。

- 旭北小学校では「絆づくり教育プラン」として、地域の方から昔遊びを教わったり、竿灯まつりに参加したり、10歳の生徒に「2分の1成人式」を体験させたりし、地域や家庭と深い絆を結ばせている。

道徳の授業で個人情報保護などの情報モラルの学習を行ったり、活用
力を育てるために、授業では積極的にICTを取り入れていた。

- 旭北小学校の英語の授業で、パソコンと直結した大きなテレビモニター
に向かって、ゲーをロック、チョコキをシザース、パーをペーパーとそれぞ
れ呼び、じゃんけんをしていた。ICTがうまく活用されていた。

教室全体を使って生徒同士でじゃんけんの相手を探していて、普通であ
れば騒がしいと思われがちだが、少しくらい騒然としている中にも緊張感
があり、教師が授業のコントロールを失わない授業が理想的であると思っ
た。

※ 報告書の作成にあたっては、秋田市ならびに旭北小学校提供の資料を参考
にしました。

学校図書館の活用について（鶴岡市）

1 鶴岡市の概要

- (1) 人口 138,499人（男：66,032人 女：72,467人）
- (2) 世帯数 47,341世帯
- (3) 面積 1,311.51km²
- (4) 予算額 593億7,600万円（平成22年度一般会計当初予算）
- (5) 議員数 34人（条例定数34人、法定上限数34人）

※数字はすべて平成22年3月31日

2 ^{チヨウヨウ}朝陽第一小学校の学校図書館について

(1) 学校経営と学校図書館について

朝陽第一小学校の教育の源流は江戸時代、庄内藩に開設された「致道館」の教えに基づいている。

致道館の教育方針は、子どもの天性に応じて長所の伸長に努め、知識の詰め込みを排して自学自習を重視した。また、子どもが飽きないように面白く教え、学習のきっかけのみ与え、あとは自ら進んで学ばせようというものだった。

朝陽第一小学校で目指すのは「心豊かな生涯学習者を育てる」ことであり、図書館活用教育を通して子どもの感性が磨かれ、思考が深まり、知性が育ち、生涯にわたって知的好奇心が旺盛で思いが深い学習者の育成を意図している。そのために、学校図書館を学校の中心に据え、読書センターや学習・情報センター、メディアセンターとしての役割も果たせるような学校づくりを目指した。平成21年に改築された校舎にも、この考えが継承され、図書館を中心とした新校舎が完成した。

(2) 学校図書館の概要

学校図書館は「致道図書館」とも呼ばれ、校舎1階中央に2教室分の146.3m²の広さがある。通路を挟んだ向かい側に同広さの多目的ホールがある。また、図書室の隣には96.3m²のコンピュータ室があり、図書館の1台を含め、全43台のパソコンが配備されている。多目的ホ

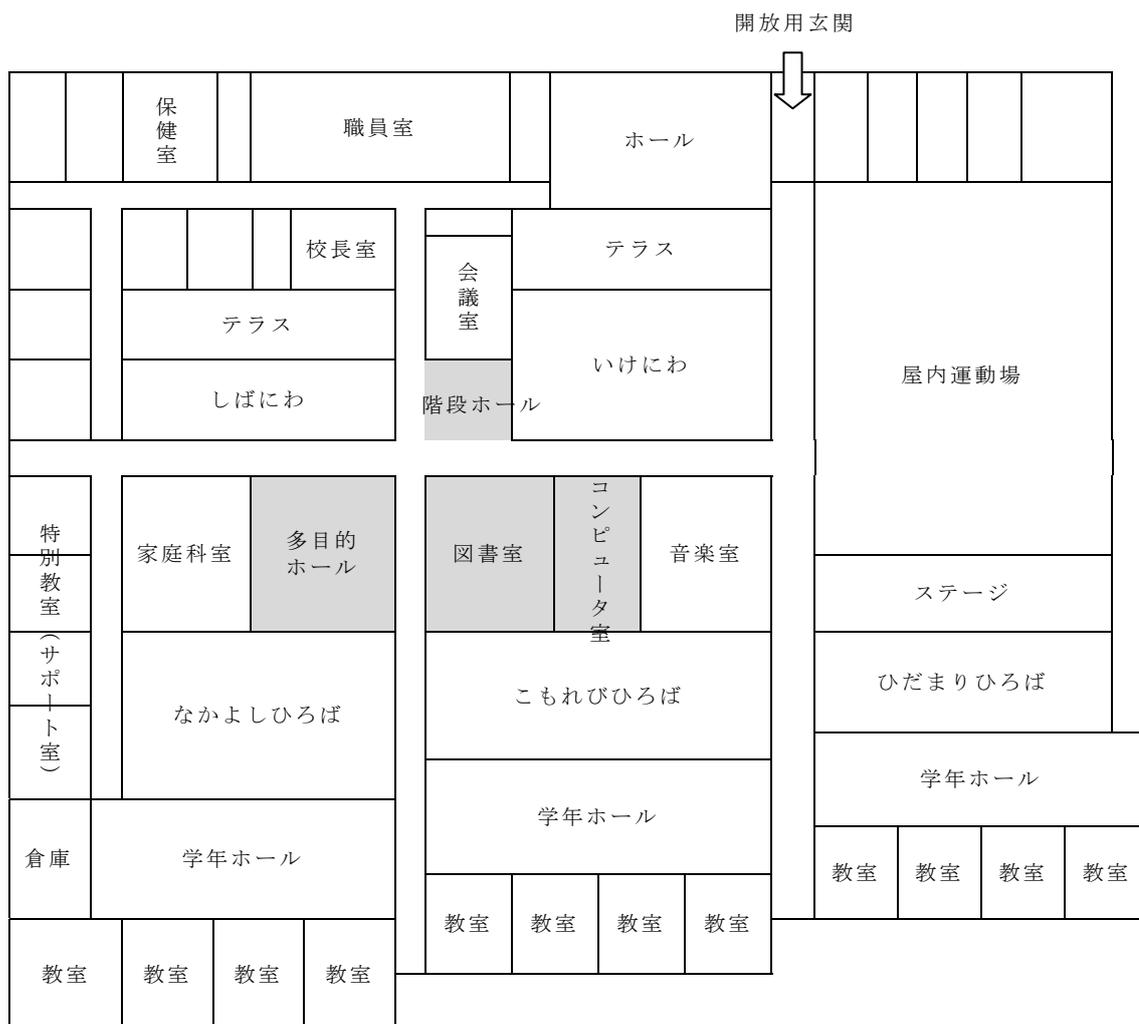
ールやコンピュータ室は、児童が調べものをする際に自由に使用できるよう開放されている。

平成22年度、図書費として104万円が予算計上されており、図書主任らの選定で図書購入等がされている。

現在、13,000冊を超える蔵書をはじめ、150冊以上の紙芝居などが所蔵されている。

日常的に読書に親しむ環境を整えた結果、1人当たりの年間平均貸出冊数は、16年前は51冊だったものが129冊へと増加したとのことである。また、読書量が増えるに従い、子どもたちは人の話を聞く場面で私語がなくなり、話し手に集中できるようになってきたとのことである。

朝陽第一小学校 1階見取図



(3) 図書館活用の実態について

学校の中心に図書館があることを受け、子どもたちが図書（読書）に関心を持つようになってきた。さらに継続させる目的で以下の4点を重点に取り組まれている。

ア 生きる力となる読書力の育成

図書館は朝から夕方まで開館し、朝読書の時間や、授業でプリントが早く終われば読書してよいなど、読書時間を確保している。

読みたい本がうまくみつからない子どもには、児童、職員らがおすすめする本を紹介し、本に関心を持たせている。

イ 図書館を活用した授業の実践

「教えられる学習」から「自ら学ぶ学習」に転換を図り、図書館のしくみ、目的の本の検索のしかたを学ばせる。

国語、社会、理科など、授業と関連づけてリスト化し、自ら必要な資料を導き出せるよう指導している。

ウ 図書館活用教育を組織的に進める

校長、教頭をはじめとし、「図書館活用教育特別委員会」を組織し、図書の選定を進めている。

図書主任、学校司書、司書教諭を配置し、図書館経営に当たっており、図書主任は学校全体を見通して図書館活動を推進する役割を担い、学校司書はメディアと人をつなぐ役割を果たし、授業で必要な図書等の準備、整備をしている。また司書教諭は学級担任でもあることから、子どもたちの声や先生方の声を直に図書館運営に生かしている。

エ 家庭・地域との教育連携を深める

授業参観時等に保護者に本を貸し出したり、土・日曜日等に図書館開放をして保護者にも読書を喚起している。

図書館ボランティア「本のたからばこ」を支援し、授業開始前の読み聞かせを実施している。

(4) 平成22年度学校概要

児童数と学級編成

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級	3	3	3	4	3	4	2	22
計	99	85	89	130	84	101	10	598

教職員数・・・41人（内専任司書1人）

3 委員・会派の所感

- 児童一人あたりの本の貸し出し冊数が年間150冊にも及んでいるその成果に驚いた。

新校舎の1階中心に図書館が配置されており、ソフトばかりでなくハード面からも図書館活用教育の実践がなされている。

本区でも学校の建て替え事業が進められているが、学校経営の中核を担う特色をそれぞれの学校が打ち出し、ソフト・ハードの両面から、それらを実践していくことが重要である。

今回の所管事務調査は大変ハードな日程を組んだ視察だったが、委員の方々が満足のいく内容でした。あらためて正副委員長に感謝すると共に、視察費を有効に活用することこそ、これからの委員会所管事務調査に必要であることを申し添えます。

- 朝暘第一小学校は会派で2年半前に視察しているが、改築され、当時と全く違う近代的な校舎に驚いた。通風や採光も良く、敷地が広いので、木や風のぬくもりがある素晴らしい学校に変身していた。しかし、学校図書館の賑わいはきれいな図書館になっても変わっていなかった。学校の中心、心臓部に図書館を配置するという、改築前に聞いていたとおりの朝暘第一小学校図書館になっていた。

図書の整理が行き届いていて、先を争って新刊本を借りにくる子どもたち。屋外にもテーブルがあり、緑陰読書ができるようになっていた。

また、図書委員の子どもたちが実によく動いていた。専任の司書教諭の配置も重要だと思う。

本を読むことは想像力を広げ、情操を高める大切な学習である。本区においても、学校図書館をさらに充実させ、本の好きな子を作る取り組

みをさらに進めてもらいたい。

- 学校図書館の活用に関し、専任の先生を配置し、新学期のはじめに「図書館オリエンテーション」を行い、読書の目当て、図書館のマナーを確認している。また、子どもの関心に任せるだけでは関心に偏りが生じるため、意図的・計画的に読書指導を行っている。

専任の図書館の先生が、担任の教師の代わりに市の図書館で授業で使いたい本を借りてきたり、児童個々の実態に応じ、読書への関心を持たせる指導もしているため、本とのつながりを豊かにどの子にも広げることができる。図書館への選任の先生の配置は必要だと感じた。

- 江戸川区の小学校の敷地面積の3倍もある朝陽第一小学校を視察して、ゆとりある空間で飛び跳ねて遊んでいる鶴岡の子どもたちをみていると、江戸川区の子どもたちを嘆かわしく思い、人口密度を軽減し、区民一人ひとりにゆとりある生活環境を提供する行政運営が必要と感じた。

東京人がどれほど収入・財産を持っていても、生活の質という面では地方の生活環境に及ばないと思った。

- ※ 報告書の作成にあたっては、鶴岡市ならびに朝陽第一小学校提供の資料を参考にしました。